

令和3年10月1日



学校だより

東京都立石神井特別支援学校

副校長 小川 達夫

秋空が、気持ちよく澄み渡たる季節となりました。朝晩の涼しさと虫の鳴き声が秋の深まりを感じさせてくれます。一方で秋は、台風が発生しやすい季節でもあります。

令和元年に東日本を襲った台風19号は、記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらしました。その時、本校でも、中学部2年生の移動教室が、宿泊施設周辺の断水が原因で、延期になりました。災害は、いつ起こるかわかりません。本校では、教職員、児童・生徒が日頃から防災意識を高める取組を行っています。

先日は、跡見学園女子大学教授の鍵屋一先生をお招きし、教職員を対象に対面と動画の活用によるハイブリッド形式の防災研修会を実施しました。

鍵屋先生は、福祉防災コミュニティ協会の代表理事で、高齢者や障害者の防災について研究をされています。講演で、過去の災害時に、障害のある子供たちや御家族がどのような状況であったのかお聞きしました。熊本地震では、特別支援学校の子供たちや御家族の避難先は、65%の方が、車中泊だったそうです。障害のある子供たちが、普段行き慣れていない避難所では、本人がその場所に馴染めなかったり、周りの方に理解していただくのに時間がかかったりすること等もあったと伺いました。障害のある子供たちが、安心して避難生活を送るためには、日頃から地域の方々との連携を図り、理解を深めていくことが大切です。実際に、東日本大震災の時、障害のある子供が近隣に住んでいることを以前から知っていた地域の方が支援に駆け付けてくれて、一緒に避難して助かったというケースもあったそうです。

また、特別支援学校における様々な事例も紹介していただきました。ある特別支援学校では、PTAが中心となり、障害のある子供たちが、災害時に備えて、一人一人が障害の特性やコミュニケーションの方法、好みや苦手なことなどを記入した自分専用の「SOS ファイル」を持つことを全校に呼びかける活動を行っているという紹介がありました。

別の特別支援学校では、災害が起きた時に、急に避難する時に持っていく物の準備をするのでは間に合わないので、予め避難先で必要となるものを入れておく「自助バック」を用意している例もありました。着替えや下着などその子が必要な生活用品の他、好みのジュースやお菓子、家族の写真、メッセージカード、クッションなど心の支えになるものを「自助バック」に入れておくと安心して過ごせます。

学校では、今後も、子供たちの安全を守るため、保護者の皆さんや地域の方々と連携し、災害に備えていきます。御家庭でも、是非、参考にいただき、災害時の備えについてお考えいただければ幸いです。